

2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2022年2月10日

上場会社名 株式会社ニチリョク
 コード番号 7578 URL <https://www.nichiryoku.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 寺村 公陽
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営統括本部長 (氏名) 五嶋 美樹

TEL 03-6281-8470

四半期報告書提出予定日 2022年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の業績(2021年4月1日～2021年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	2,138	14.1	148	—	63	—	15	—
2021年3月期第3四半期	1,874	△19.0	△75	—	△287	—	△319	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	1.14	1.09
2021年3月期第3四半期	△43.45	—

(注)当社は、2021年4月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。また、2021年3月期第3四半期の「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第3四半期	9,239	4,186	45.2	286.86
2021年3月期	9,735	3,923	40.2	305.58

(参考)自己資本 2022年3月期第3四半期 4,178百万円 2021年3月期 3,917百万円

(注)当社は、2021年4月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり純資産」を算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2022年3月期	—	0.00	—		
2022年3月期(予想)				2.00	2.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注)当社は、2021年4月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。2021年3月期の期末の配当金については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

3. 2022年3月期の業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,000	14.3	216	97.2	106	—	45	—	3.41

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	14,603,005 株	2021年3月期	12,830,005 株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	9,555 株	2021年3月期	9,505 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	13,199,508 株	2021年3月期3Q	7,355,269 株

(注)当社は、2021年4月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「発行済株式数(普通株式)」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、第2四半期累計期間まで新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のデルタ株による感染爆発に翻弄され、政府及び各自治体による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が概ねの期間交互に発出されたものの、感染者数は2021年8月20日をピークに減少に転じ、第3四半期会計期間は全ての宣言や措置が解除され経済活動は落ち着きを取り戻し、感染症収束を予感させる形で終わりました。

当社が属するメモリアル市場は、高齢者が増加傾向にあるにもかかわらず、お墓事業における屋外墓地については、埋葬の選択肢の多様化に伴い、高価格となる旧来の墓地墓石の購入層は年々減少しております。

この流れに対応すべく当社は、消費者ニーズに寄り添った様々なお墓の形態を兼ね備えた霊園を開発すると共に、供養の全てを網羅し、価格においてもご満足いただける納骨堂（自動搬送式）の販売拡大に取り組んでおります。

葬祭事業においては、超高齢化を背景に葬儀の簡素化が顕著となる中、インターネット媒体を中心とした同業者間の価格競争により、施行単価が下落するという厳しい環境下にあります。

それに加え、コロナ禍の影響による通夜式を自粛し告別式のみを執り行う密葬や直葬を選択するご葬家が増加傾向にあることから、葬儀専門のポータルサイトとの連携を通じ受注件数の増大に努めました。

この結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高21億3千8百万円（前年同四半期比14.1%増）、営業利益1億4千8百万円（前年同四半期は営業損失7千5百万円）、経常利益6千3百万円（前年同四半期は経常損失2億8千7百万円）、四半期純利益1千5百万円（前年同四半期は四半期純損失3億1千9百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①お墓事業

a. 屋外墓地

屋外墓地につきましては、高齢者の増加により成約件数は増加傾向にあるものの、埋葬に対する価値観の変化や選択肢の多様化に伴い、高価格となる旧来の墓地墓石の購入層は年々減少しております。

それに対し、樹木葬や共有墓等の需要は急激に増加し、施工単価の下落がより顕著化している状況を踏まえ、募集販売を受託している既存霊園の増設や改造等、販売戦略の見直しを適宜行っており、コロナ禍による来園者数の減少は依然否めないものの、成約率は上昇傾向にあることから収益は改善しております。

売上高は、8億5千9百万円（前年同四半期比11.6%増）となりました。

b. 納骨堂

納骨堂につきましては、現在、第六号「赤坂一ツ木陵苑（東京都港区）」並びに第七号「大須陵苑（名古屋市中区）」の募集代行を行っております。

コロナ禍による外出自粛の影響や埋葬の選択肢の多様化等を踏まえ、広告戦略の抜本的な見直しや徹底した感染防止対策等に努めた結果、屋外墓地と同様に収益は改善傾向にあります。

売上高は、1億6千5百万円（前年同四半期比10.3%増）となりました。

②葬祭事業

葬祭事業につきましては、死亡者数が年々増加傾向にある中、春夏秋冬に発行する会報の配布やコロナ禍を踏まえ少人数に限定した終活セミナーの開催等、潜在顧客を受注に繋げる施策を継続的に行っております。

当社は、2021年6月、会員に対して葬儀等を割引価格で提供するだけでなく、シニアライフを応援する終活や葬儀後の諸手続きをサポートすることを目的に、有料会員サービスである「愛彩花倶楽部」を「さくら倶楽部」へ名称変更し、特典内容を大幅に刷新すると共に、新たに無料会員サービスである「あおい倶楽部」を新設しました。

これは、有料・無料の会員を獲得することで、最終的に当社のメインサービスである葬儀や墓地墓石等の受注に繋げ、収益の増大を目的としております。

また、葬儀専門のポータルサイト等と連携した潜在顧客以外の受注拡大と併せて抜本的な経費の見直しに注力した結果、会葬者の減少は依然否めないものの受注件数は第3四半期累計期間過去最高を記録し、収益は大幅に改善しました。

売上高は、11億1千3百万円（前年同四半期比16.8%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期会計期間末における流動資産は、前事業年度末に比べ、6億7千7百万円減少し、16億7千1百万円となりました。その主な要因は、現金及び預金6億9千2百万円の減少等によるものであります。

当第3四半期会計期間末における固定資産は、前事業年度末に比べ、1億8千9百万円増加し、75億3千6百万円となりました。その主な要因は、差入保証金4億3百万円の増加、土地2億9百万円の減少等によるものであります。

この結果、総資産は、92億3千9百万円となり、前事業年度末に比べ4億9千5百万円減少いたしました。

（負債）

当第3四半期会計期間末における流動負債は、前事業年度末に比べ、9千7百万円増加し、22億7千6百万円となりました。その主な要因は、1年内返済予定の長期借入金8千4百万円及び未成工事受入金5千7百万円の増加、預り金3千9百万円の減少等によるものであります。

当第3四半期会計期間末における固定負債は、前事業年度末に比べ、8億5千5百万円減少し、27億7千7百万円となりました。その主な要因は、長期借入金8億2千9百万円の減少等によるものであります。

この結果、負債合計は、50億5千3百万円となり、前事業年度末に比べ7億5千8百万円減少いたしました。

（純資産）

当第3四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ、2億6千2百万円増加し、41億8千6百万円となりました。その主な要因は、資本金1億3千4百万円及び資本剰余金1億3千4百万円の増加等によるものであります。

この結果、自己資本比率は45.2%（前事業年度末は40.2%）となりました。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、現時点、2022年2月9日の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,683,848	991,431
完成工事未収入金	20,336	33,782
売掛金	194,753	177,421
永代使用権	174,234	166,755
未成工事支出金	184,582	171,504
原材料及び貯蔵品	52,025	62,438
その他	38,868	67,922
貸倒引当金	△22	△74
流動資産合計	2,348,627	1,671,180
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	638,417	560,250
土地	2,031,662	1,822,050
その他(純額)	13,242	8,220
有形固定資産合計	2,683,323	2,390,521
無形固定資産	81,466	68,814
投資その他の資産		
長期貸付金	59,527	58,177
差入保証金	3,804,491	4,207,731
長期末収入金	361,053	354,235
霊園開発協力金	27,770	156,064
その他	361,054	331,646
貸倒引当金	△31,098	△30,438
投資その他の資産合計	4,582,799	5,077,417
固定資産合計	7,347,588	7,536,752
繰延資産	39,229	31,829
資産合計	9,735,445	9,239,762
負債の部		
流動負債		
買掛金	72,630	64,140
短期借入金	649,146	641,131
1年内返済予定の長期借入金	1,005,083	1,089,219
1年内償還予定の社債	10,000	—
未払法人税等	16,257	17,597
賞与引当金	3,479	5,209
その他	422,665	459,187
流動負債合計	2,179,261	2,276,486
固定負債		
社債	5,000	—
長期借入金	3,160,530	2,331,102
退職給付引当金	252,141	230,960
役員退職慰労引当金	74,809	86,996
その他	140,285	127,995
固定負債合計	3,632,766	2,777,054
負債合計	5,812,027	5,053,540

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2021年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,650,450	1,784,576
資本剰余金	1,301,690	1,435,816
利益剰余金	975,448	964,833
自己株式	△2,768	△2,778
株主資本合計	3,924,820	4,182,447
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	△7,085	△4,391
評価・換算差額等合計	△7,085	△4,391
新株予約権	5,682	8,164
純資産合計	3,923,417	4,186,221
負債純資産合計	9,735,445	9,239,762

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	1,874,006	2,138,844
売上原価	584,945	604,379
売上総利益	1,289,060	1,534,465
販売費及び一般管理費	1,365,030	1,386,415
営業利益又は営業損失(△)	△75,969	148,050
営業外収益		
受取利息	1,348	1,180
受取配当金	183	183
受取賃貸料	3,612	3,612
受取手数料	—	4,370
協賛金収入	3,762	7,121
その他	8,211	2,949
営業外収益合計	17,116	19,417
営業外費用		
支払利息	73,624	67,432
シンジケートローン手数料	140,000	—
情報セキュリティ対策費	—	13,100
その他	15,032	23,859
営業外費用合計	228,657	104,391
経常利益又は経常損失(△)	△287,509	63,075
特別利益		
固定資産売却益	249	—
特別利益合計	249	—
特別損失		
固定資産売却損	—	31,115
固定資産除却損	163	2,437
特別損失合計	163	33,552
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△287,423	29,523
法人税、住民税及び事業税	7,299	8,294
法人税等調整額	24,847	6,202
法人税等合計	32,147	14,497
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△319,570	15,026

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。